

街 に 対 す る 構 え

シンプルなボリューム構成をとったため、ファサードは無個性ではあるが、**集合住宅らしさのないファサード**となった。この場においては、らしさのないファサードである方が、オフィスや店舗が多くを占める街並みの中に違和感なく溶け込むのではないかと考えた。ボリュームの大きさに関しても、一般的なスケールで積層すれば30mほどになるボリュームを、階高を調整することで40m（塔屋含め43m）とし、大通りに対しての構えも周囲のビルと大差がないようにしてる。

また、プライバシーが確保された住戸は、外からは分厚いスラブに内包されているように見え、10階建てでありながら5層とも捉えられる、独特なプロポーションとした。反復という、都心のビル群に共通する普遍的な建築言語でありながら、そのプロポーションをやや間延びさせたような構えとすることで固有性も獲得している。周辺の建築同様、1Fにテナントを入れることは共通しているが、それをファサードに表出させないことで、外からの見えとしては上下の関係性が切り離されないようにしている。

